ボーリング柱状図

調　査　名　平成16年度標津断層帯調査業務委託

事業・工事名　平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

ボーリングNo.	3										

シートNo.　1

ボーリング名	S04-Ko-3	調査位置	標津郡標津町字西古多糠					北緯	43° 47' 13.0"
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			調査期間	平成 16年 10月 2日 ～ 16年 10月 8日			東経	144° 58' 23.5"
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	主任技師	田邉　謹也	現場代理人	越谷　賢	コア鑑定者	林 健太郎・越谷 賢	ボーリング責任者	中村　幸彦
孔口標高	152.00m	角度	上180° 90° 下0° 0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°	地盤勾配	水平0° 鉛直90° 0°	使用機種	試錐機	利根TDC-1G	ハンマー落下用具	トンビ
総掘進長	35.00m								エンジン	ヤンマーNFD-12	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（）	掘進月日
	151.45	0.55	0.55		耕作土	黒褐			有機質シルト。橙色軽石が散在。														
1	151.00	0.45	1.00		軽石	黄褐灰～褐橙			亜円。級化構造発達。(Ma-1)														
	150.68	0.32	1.32																				
2					ローム質粘性土	黄褐			軽石・スコリア(径1mm以下)散在。										1.50 S04 1.51	Ko-3-1.50			
3	149.02	1.66	2.98		火山灰質シルト・砂互層	褐灰～灰褐			シルトは葉理(水平)があり、砂層は級化する。2.03～2.54m:亜円礫(径2～10mm)を含む。														
	148.64	0.38	3.36																				
4					砂礫	淡黄灰			角礫(径10～40mm)が混在する不淘汰な粗粒砂が主体。礫種は凝灰岩・硬質泥岩が主体。															
5					シルト混り砂礫	灰褐			亜円～扁平礫(平均径5～10mm・最大径50mm)。礫種は凝灰岩・泥岩が主体で流紋岩・玄武岩を稀に含む。安山岩礫は極少量。基質はローム質粘性土。全体に礫径の淘汰は不良。 3.36～4.00 m :扁平礫の定向配列（ほぼ水平）が認められる。															10/2
6																							
7	144.85	3.79	7.15																7.15 S04 7.21	Ko-3-7.15		火山灰分析	
	144.79	0.06	7.21																				
					軽石	黄褐			礫混り橙・桃色軽石(径1mm)。安山岩亜円礫を含む。														
8	143.42	1.37	8.58		シルト混り砂礫	灰褐			不淘汰な亜円礫(平均径5～20mm・最大径70mm)。礫種は平均的には凝灰岩が多く、礫径の大きなものでは安山岩が多い。下部は流紋岩・玄武岩礫が目立つ。基質はローム質粘性土。															
	143.37	0.05	8.63																				
9					軽石	黄褐			亜円礫混り軽石質中粒砂。														
10																							
11																							10/3
12					シルト混り砂礫	灰褐			不淘汰な亜円～扁平礫(平均径5～30mm・最大径80mm)が主体。礫種は凝灰岩・安山岩が多く、下部では流紋岩礫が含まれる。基質はローム質粘性土。 9.25～10.00・10.76～11.00・12.00～12.50m:扁平礫が定向配列(ほぼ水平)が認められる。	10/4 12.35 ▽														
13																							
14																							
15																							
16	135.96	7.41	16.04																16.04 S04 16.15	Ko-3-16.04		火山灰分析	
	135.85	0.11	16.15		軽石	黄褐			安山岩円礫を含む黄色軽石質砂。葉理があるが、分級不良。														10/4
17					シルト混り砂礫	灰褐			16.15～17.08m:安山岩の円～亜円礫(径5～20mm)主体。下部は砂質。 17.08～18.27m:安山岩亜円～扁平礫(径10～50mm)主体。玄武岩礫含む。															
18	133.73	2.12	18.27																				
	133.25	0.48	18.75		シルト質砂礫	灰褐			安山岩亜円礫(径5～10mm)を多含。上部は安山岩腐り礫を含む。（段丘堆積物）														
19																							
20					スコリア質砂	黒褐			中粒砂。稀に凝灰岩円礫(径3～5mm)・橙色軽石を含む。 19.91～20.00m:火山灰葉理が水平に挟在。20.37～20.38・21.10m:新鮮な繊維状の軽石を含む。										20.37 S04 20.38	Ko-3-20.37		火山灰分析	
21																							
22	129.40	3.85	22.60																				10/5
23					砂	暗灰			石英粒主体。23.00～23.69m:級化する粗粒砂。稀に安山岩円礫(径5～10mm)含む。23.69～23.77m級化構造発達。															
24	128.00	1.40	24.00																				
25					細礫混り火山灰質砂・砂互層	黄灰～暗灰			全体に安山岩・凝灰岩の亜円礫(径1～3mm)を少量含む。 火山灰質砂は石英粒と火山灰の混合物で新鮮な軽石を少量含む。。砂は石英粒主体。細～粗粒の級化構造が発達。															
26	126.00	2.00	26.00																				
27					軽石混り	淡緑灰			全体に軽石(径5～30mm)を比較的多														

27	122.23	3.77	29.77		石混り火山灰質砂	淡緑灰～暗緑灰			全体に軽石(径5～30㎜)を比較的多含する。下部で安山岩角礫(径2～5㎜)を少量含む。 26.40～27.00m:橙色軽石(径1㎜)混り細～粗粒砂。	
28										
29										
30	120.45	1.78	31.55		腐植質シルト固結	暗褐(青灰)			腐植材を多く含む。斜交葉理状に黄灰色シルトを挟み、葉理の傾斜は10～40° と変化に富む。 逆級化する厚さ10～20 cm の青灰色細～中粒砂を互層状に挟む。	
31										
32	119.12	1.33	32.88		砂礫	青灰			安山岩・凝灰岩の亜円～扁平礫(径5～70㎜)が主体。基質はシルト～粘土～細粒砂と変化に富む。	
33	117.22	1.90	34.78		腐植質シルト固結	暗褐			腐植材を多く含み、凝灰岩細礫(径2～3㎜)が点在する。 斜交葉理の発達する中粒～細粒砂・細砂礫(凝灰岩・安山岩・閃緑岩の亜円礫)を互層状に挟む。葉理は全体的にほぼ水平。下位層との境界は10° 程度で傾斜する。	
34										
35	117.00	0.22	35.00		砂	暗青灰			細粒～粗粒砂。級化構造発達。	